



# 農地再生レインボー通信



発行：福島県耕作放棄地対策協議会 編集：福島県農村振興課 TEL 024-521-7415 FAX 024-521-7545 E-mail:nosonshinko@pref.fukushima.jp



## 今季のさわやかリフレッシュ



農地の再生を使命としたボランティア団体です

耕作放棄地活用支援「ふくしま・たがやし隊」の活動を紹介します。

### 教育ファームの収穫ボランティア

#### ○ボランティア活動の内容

県事業で設置している水田を活用した教育ファームにおいて、石川町の「野木沢まちづくり委員会」から収穫ボランティアの要請を受け、石川町立野木沢小学校の児童とともに収穫作業を行いました。



### 耕作放棄地の再生作業

#### ○ボランティア活動の内容

郡山市の農業者の方が、経営規模拡大のため、田村市でネギの栽培を実施するにあたり、耕作放棄地を再生する作業をお手伝いしました。



今回は、「耕作放棄地の再生作業」と「耕作放棄地再生後の農作業」のお手伝いを行いました。が、「加工・販売」、「イベントや県事業への参加」などの活動も実施しています。

## むらからまちから

## 南会津町農業再生協議会

の取組を紹介いたします。



### ① 協議会の設立経緯

増加傾向にある耕作放棄地の拡大防止と解消を進めるため、平成21年11月に南会津町耕作放棄地対策協議会を設立し、平成24年1月には農業者戸別所得補償制度の推進に向け、担い手確保や遊休農地活用の相互連携による一体的な事業展開を図るため、関係団体を統合し南会津町農業再生協議会を設立しました。

### ② 今年度の取組状況

農業生産法人や担い手が耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して耕作放棄地の解消に取り組み、合計約6.1haの耕作放棄地が解消され、主にそばが作付けされました。

### ③ 特徴的な取組

10haを超える解消活動を行う農業生産法人・営農団体が複数存在し、いずれもそばを作付けしています。有機栽培に向けて無化学肥料・無農薬栽培をしている団体や、製粉所の整備、蕎麦店の開設、独自の販路拡大や6次産業化を進めている法人があるなど、それぞれの団体が創意工夫して栽培・販売を行っています。

### ④ 次年度以降の抱負・活動展開予定

解消事業についてのPR活動を強化するとともに、複数品目で解消を推進することで更なる耕作放棄地の解消を図ります。



# お邪魔します!!

## 矢祭町の「みつばち菜花クラブ」

にインタビューしました!!



みつばち菜花クラブのみなさん

**A** 「自分たちでミツバチを飼養する」という目標は、概ね達成できたので、今後は、蜜源の維持・管理に係る経費を確保できるようにしたいと思います。



今後の目標をお聞かせください。

**A** 平成19年から始まった耕作放棄地再生の面積は、5年間で3.0 haで、地区内の耕作放棄地はほぼなくなりました。再生したほ場では、菜の花、そば、ひまわり、ヘアリーベッチを栽培し、5月～9月までの期間を通してミツバチの蜜源を確保することができました。また、ミツバチも年々増加してきて、現在では約280万～350万匹飼養しています。平成21年度は、国の事業耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して再生し、平成23年度からは、矢祭町耕作放棄地対策協議会で購入した草刈り機を賃借するなどしてほ場を管理しています。



これまでに再生した耕作放棄地の利用状況についてお聞かせください。

**A** みつばち菜花クラブは、集落のイチゴ栽培農家で結成した組織です。我々は、イチゴの受粉交配にミツバチを利用しますが、平成18年頃から全国的にミツバチ数が急減してきたことに危機意識を持ち、平成19年に自分たちでミツバチを飼養することにしました。そこで蜜源を確保する必要があったので、土地所有者に相談して、地区内にあった耕作放棄地に菜の花やそばを作付けした(初年度の解消面積: 0.5 ha)ことがはじまりです。



耕作放棄地の再生に取り組んだきっかけについてお聞かせください。



## 羅針盤

～福島県・県協議会からのお知らせ欄～



お知らせ

～福島県並びに県協議会からのお知らせ～

◎ 県協議会では、「東日本大震災や原発事故で避難されている方などが避難先」や「風評被害などによる作物転換」などで、耕作放棄地を利用して営農を再開する取組を支援する「被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業」の募集を行っております。本事業はこれまで、実証ほ場による営農再開、牧草地確保や園芸施設導入などに活用されております。

詳しくは、県耕作放棄地対策協議会、県農村振興課、各市町村等の地域耕作放棄地対策協議会までお問い合わせください。

## 編集後記

ボランティア活動の事務局員として、「ふくしま・たがやし隊」の活動のお手伝いをしましたが、子供たちが慣れない手つきで一生懸命に稲を収穫している姿は、可愛くもあり清々しい気持ちにさせてくれます。外で働くって気持ちがいいなと、ふと我がお腹を見たらメタボなお腹が「もっと働け」と訴えかけているようでした…。

※今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、[nosonshinko@pref.fukushima.jp](mailto:nosonshinko@pref.fukushima.jp) までご連絡ください。